

27G-pm13

N-アセチルグルコサミン転移酵素 V の受容体基質となる三糖誘導体の合成研究
○有光 健治¹, 木村 寛之², 梶本 哲也^{1,3}, 野出 學¹ (¹京都薬大, ²京大院薬, ³鈴鹿医療大薬)

【目的】GnT-V は前癌状態からその発現が認められる糖転移酵素で、アスパラギン結合型糖鎖の高分岐化を引き起こし、癌細胞の悪性度や転移能に密接に関与することが知られている。本酵素の受容体基質となる三糖誘導体の研究は、癌化のメカニズムの解明および治療薬の開発へと繋がると考え、糖脂質型三糖誘導体の設計・合成を検討した。

【実験・結果】当研究室で開発された無臭チオールを用いたグリコシル化反応により、アグリコンに光感受性保護基を持つ三糖(6)を得た。また光による温和な条件で脱保護に成功し、続く Dess-Martin 酸化によってアルデヒド体(7)へと誘導した。現在アグリコンの延長を検討している。

